

親子塾 可能性支える

宇治小倉新聞

アジール舎の10年 下

亀口誠子さん(66)が始めたアジール舎の自主事業「アジール親子塾」は、今年で13年目になる。

小学校の教師を退職する前年の2004年の夏休みの補習。受け持っていた4年生の児童と1対1で、1時間勉強する取り組みをした。日ごろ見せない笑顔を見せる子どもや、わからないところがほぐれるように理解できていく子ども……。へもうひとつの可能性があるかもしれない。学校の外から子どもたちを支える。

いま、「ころぼっくるの家」の隣にある長屋の2部屋を使っている。誠子さんの教師時代の仲間たちと教えている。火く金曜の放課後、1コマ1時間、1日4人が限度。途中でやめる児童がほとんどいないので、小学1年まで入っていると、6年までつきあうことになり、開設以来の教え子は、



「アジール親子塾」で男の子と対面して指導する亀口誠子さん＝宇治市榎島町

学習意欲取り戻す場

宇治小倉新聞は今回で終わります。ご愛読ありがとうございました。

延べ65人になった。誠子さんは「学校は生きる力をつけるところでもあるのに、いまはほんとに学力偏重になっている」と嘆く。親子塾は、勉強をしたい、という気持ちを取り戻す場になるよう、カルタやすごろくなどのゲームも採り入れ、子どもが学校での出来事を話すのに耳を傾ける。「ころぼっくるは療育、親子塾は学習。アジール舎の両輪だと思っています」

夫の公一さん(67)は「アジール舎は、子どもたちそれぞれの特徴を否定せず、どうすれば子どもがあるがままに生活し、豊かな子ども期を過ごせるかがポイントにしている。まさに、大人が付度し、子どもたちのメッセージを読み取っていく必要がある」と話す。「学校でもなく家庭でもない『通学途中』の場が、子どもたちにとっての『地域』。アジール舎が、子どもにとつての地域の憩いの場であればいいですね」

(小山塚)

南京都

お葬式 家族葬

公益社
プライベートホール

☎0120
004-200

都総局
604-8101
京区御池通柳馬場角
☎ 075(211)3351
fax (211)8339
mail:kyoto
@asahi.com
研都市支局
610-0334
田辺市田辺中央6-1
鉄新田辺西ビル8